

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石畠 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1)言語3
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1)言語4
(2)キャンパスライフ(相談)
- (1)社会1
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会2
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会3
(2)キャンパスライフ(課外活動)
- (1)社会4
(2)スタディスキル(受講)
- (1)数学1
(2)スタディスキル(理解と表現1)
- (1)数学2
(2)スタディスキル(理解と表現2)
- (1)数学3
(2)キャンパスライフ(今後の学修について)

- (1)数学4
(2)キャンパスライフ(学生相談)
- (1)確認試験1
(2)スタディスキル(理解と表現3)
- (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法
演習形式

準備学修
webで参照すること。

課題・評価方法
リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

欠席について
3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
一般常識リメディアルテキスト (育仲社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック (ナカニシヤ出版)

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)言語1
(2)今学期の目標を設定する。
- (1)言語2
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1)言語3
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1)言語4
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1)社会1
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- (1)社会2
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
- (1)社会3
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- (1)社会4
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- (1)数学1
(2)レポート作成:要約をする。
- (1)数学2
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- (1)数学3
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- (1)数学4
(2)Kaisei English and Tourism Festival
- (1)確認試験1
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- (1)確認試験2
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- (1)確認試験3
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法
演習形式

準備学修
テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
一般常識リメディアルテキスト (育仲社)

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.心理学実験と統計の基礎知識
- 3.知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4.知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5.認知・学習1ー鏡映描写
- 6.認知・学習2ー鏡映描写
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.イメージの測定(SD法)1
- 12.イメージの測定(SD法)2
- 13.社会的促進1
- 14.社会的促進2
- 15.まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間)

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス
- 5.BIG FIVE尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
- 12.WISC知能検査①
- 13.WISC知能検査②
- 14.WISC知能検査③
- 15.総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学的支援法			17383	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	1	大学病院心療内科講座研究員、一般病院心療内科勤務、 中高スクールカウンセラー、大学相談室カウンセラー			

授業の到達目標

本授業では、心理学的支援とは何かについて学ぶ。代表的な心理療法並びに、カウンセリングの歴史、概念、意義、について学び、さらにそれらの適応及び限界についても触れる。また、今後ますます必要になってくるとされる訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても学ぶ。そして、心理学的支援を行う上で必要な、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について、プライバシーへの配慮に触れながら実習などを通して学ぶ。心の健康教育の重要性についても考える。このクラスでは、海星パーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

心理学的支援について、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応、及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、を中心に講義と実習を通して学ぶ。

授業計画

- 1.心理療法とカウンセリング①
- 2.心理療法とカウンセリング②
- 3.心理療法とカウンセリング③
- 4.心理療法とカウンセリング④
- 5.信頼実習
- 6.助言の実習
- 7.心理学的支援におけるプライバシーへの配慮
- 8.地域支援と訪問支援
- 9.「宝探しの地図」実習
- 10.心理学的支援を要する人の関係者に対する支援
- 11.良好な人間関係を築くためのコミュニケーション
- 12.コンセンサスの実習
- 13.「共感」実習
- 14.「純粋性」実習
- 15.心の健康教育

授業の方法

講義と実習（グループ、ペア）を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①グループ実習やペア実習の後には、講義の中でフィードバックを行い、レポートの提出を求める。

②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

欠席について

連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特に用いない。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学研究法			17387	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データをを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

授業計画

- 1.心理学における研究
- 2.心理学研究の基礎知識
- 3.先行研究の調査
- 4.研究法の概説 量的研究
- 5.研究法の概説 質的研究
- 6.心理統計法1
- 7.心理統計法2
- 8.実験法
- 9.調査法
- 10.観察法
- 11.面接法
- 12.研究倫理1
- 13.研究倫理2
- 14.研究のまとめ方
- 15.まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

三浦麻子 著『心理学ベーシック第1巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会・集団・家族心理学			17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

授業計画

- 1.社会心理学とは
- 2.認知と感情
- 3.自己概念と自己評価
- 4.ステレオタイプ
- 5.態度と態度変化
- 6.対人関係
- 7.集団と個人1
- 8.集団と個人2
- 9.組織と個人
- 10.集団行動
- 11.心と文化1
- 12.心と文化2
- 13.家族という集団
- 14.家族の心理
- 15.まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

池田謙一・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1.授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2.子ども文化の意義、定義とその構造
- 3.子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4.子どもを取り巻く生活環境について
- 5.現代の子どもたちの遊びと生活
- 6.集団遊びの重要性
- 7.集団遊びの重要性
地域・公共物とのかかわりについて
- 8.自然とのかかわりについて(教室を出ての実際体験)
- 9.自然の中での遊びの重要性
- 10.伝承遊びについて
- 11.児童文化財について
- 12.1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
- 13.季節の遊びについて(お正月)
- 14.子どもを取り巻く「ひと」・「もの」・「こと」
- 15.まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
長谷川 貴子	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさや多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人の関わりについて検討する。

授業計画

1. はじめに：乳幼児心理学とは
2. 胎児の発達
3. 身体・運動機能の発達
4. 知覚の発達
5. 認知・思考の発達
6. 情緒の発達
7. ことばの発達
8. 自己の発達
9. 親子関係の形成と発達Ⅰ：錯覚から脱錯覚へ
10. 親子関係の形成と発達Ⅱ：愛着
11. 社会性・道徳性の発達
12. 子育て・親としての成長と支援
13. 乳幼児虐待
14. 発達の偏りと支援
15. まとめ

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

定期試験（50％）、小レポート（20％）、出席（30％）

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・言語心理学			17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身に付ける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習理論 1
3. 学習理論 2
4. 学習理論と動機づけ
5. 自己とことば 1
6. 自己とことば 2
7. ことばの発達 1
8. ことばの発達 2
9. ことばの発達 3
10. ことばの発達 4
11. 思考とことば
12. 行動のコントロール
13. ことばを育むために
14. ことばにおけるナラティブ理論
15. まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』保育出版社

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史の変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個々人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実際
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 特別支援教育の現状
3. 視覚障害の理解と特別支援教育
4. 聴覚障害の理解と特別支援教育
5. 言語障害の理解と特別支援教育
6. 知的障害の理解と特別支援教育
7. 発達障害の理解と特別支援教育 1
8. 発達障害の理解と特別支援教育 2
9. 肢体不自由の理解と特別支援教育
10. それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
11. それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
12. 特別支援教育の変遷
13. 生涯発達支援について 1
14. 生涯発達支援について 2
15. まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。